

# 1月31日、札幌市資料館にて開催！ 映画「大地の侍」上映セミナーのご案内

映画「大地の侍」の上映セミナーを 2026 年1月31日（土）に**札幌市資料館にて開催**します。

この作品を通じて、北海道開拓の時代に生きた先人たちの足跡をたどり、現代を生きる私たちの“未来への糧”とするひとときを共にしませんか。

地域や世代を越えた共感と学びの機会として、多くの皆さまのご来場を心よりお待ちしております。

## 【開催概要】

- 日 時：2026年1月31日（土）13時30分～16時00分（開場13時00分）
- 会 場：札幌市資料館 2階 研修室  
（札幌市中央区大通西13丁目）
- 定 員：60名
- 参加費：無 料
- 申込方法：下記のポスターをご確認のうえ、WEB または電話によりお申し込みください。
  - ・申込期間：2025 年 12 月 11 日（木）～2026 年 1 月 21 日（木）
  - ・申込多数の場合は抽選を行い、開催 1 週間前を目安に当選通知が行われます。
- 問い合わせ先  
札幌市資料館 電話011-251-0731

# 映画「大地の侍」 上映セミナー

2026  
**1/31**±  
13:30～



明治維新後、朝敵の汚名を受けた奥羽岩出山伊達家の主従が新生の地を求めて、北海道石狩川の大原野に挑み、屈辱、困窮に堪えながら肥沃の大地を築いていく開拓史の物語・映画「大地の侍」。北海道開拓の時代や北海道農業の礎を知り、未来への糧とするための上映セミナーを実施します。ぜひご参加ください。

**会場** 札幌市資料館2F 研修室

060-0042 札幌市中央区大通西13丁目  
地下鉄東西線「西11丁目」一番出口より 徒歩5分

**定員** 60名

※多数時は抽選となります



参加無料・全席自由

## 当日のタイムスケジュール

- 13:00 開場予定
- 13:30 映画背景解説 (20分)
- 13:50 映画上映 (105分)
- 15:35 意見交換会



**参加お申込みは札幌市資料館まで**

**TEL** 011-251-0731

**FAX** 011-271-5921

**HP** [www.s-shiryokan.jp](http://www.s-shiryokan.jp)  
応募ボタンより

【受付期間】2025/12/11 (木) 9:00～2026/1/21 (木) 17:00 ※HPは初日のみ10:00より受付

- 申込多数の場合は抽選を行い、開催1週間前を目安に当選通知を行います。落選の場合は連絡いたしませんのでご了承ください。
- 抽選を行わない場合も、上記同様に資料館からご連絡いたします。



主催：札幌市資料館 共催：一般財団法人HAL財団

## 「大地の侍」が私たちに語りかけるもの

明治政府が誕生し、蝦夷地が「北海道」と改称されたのは、明治2年（1869年）。以来この地に生きる人たちは想像を絶する艱難辛苦に耐え、立ちはだかる困難にも立ち向かいながら、この広大な大地を切り拓いてきました。初期の北海道開拓を担ったのは、明治維新で禄を失った武士たち。この映画は、北海道開拓（農業）の歴史を知る上で貴重な史料と言えるものです。同時に農業の今はもとより、北海道の未来への道筋を考える上でも、私たちに多くの示唆とエネルギーを与えてくれるはずです。農業は北海道の基幹産業ですが、農業人口は減少を続け、後継者不足も顕在化してきています。しかし、食料自給率の向上を図る上で、“生命の産業”と言われる「北海道農業」の果たす役割は一層高まっていくに違いありません。この映画を通して、北海道開拓の歴史に改めて思いを馳せ、農業に対する理解と共感のすそ野を広げていきたいと考えています。（一般財団法人HAL財団）



## ストーリー

原作は、北海道出身の作家・本庄陸男の「石狩川」。舞台は明治維新後の北海道開拓期の原野。幕府軍と官軍の最後の戦いである戊辰戦争に敗れた藩士たちが開拓民として生きるべく奮闘する姿を描く。奥州の岩出山伊達家は仙台藩伊達家の支藩。戦いに敗れ俸禄を失った岩出山の武士たちは、生きるために、武士を捨て農民になることを決意し、藩主、家老共々、北海道に移住することを決断。移住第一陣の老若男女164名は、胆振の海岸に上陸し、明治新政府から認められた新天地を目指す。しかし、そこはまさに不毛の地。熟慮の末、武士たちは当別を新たな入植地として定め、開拓使と交渉を始める…。武士たちの行末は…。（1956年公開 東映 105分）

## キャスト・スタッフ

大友柳太朗（家老阿賀妻謙）、三條美紀（妻貞乃）、伊藤久哉（藩主伊達邦夷）、加藤大介（玉目三郎）、山形勲（官軍隊長堀盛） ほか  
監督：佐伯清 脚本：高岩肇 音楽：小杉太一郎 撮影：藤井静 ほか